

群馬県立太田フレックス高等学校【通信制課程】

学校評価一覧表

(令和6年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①「太田フレックス高校通信制の履修形態に満足している」と考える生徒・保護者が90%以上である。	履修ガイダンス及び履修相談の充実のため、研修等で職員の間通理解を図る。	A	A	A	本校の教育課程等について、生徒の98%、保護者の100%が肯定的である。引き続き、きめ細かな履修相談を実施し、生徒の単位修得を促す。	全国的に通信制課程に対するニーズは高まってきているように思う。文科省の「令和の日本型学校教育」の実現に向けた通信制高等学校の在り方に関する調査研究協力者会議においても、私立の広域通信制課程を置く高等学校数・生徒数が増加しているとの報告があった。ネットを活用した通信制の学校が増えるなかでの競争がある。そうした中で、太田フレックスの特色、あるいは強みを十分に生かしていけることを望みたい。
		②「太田フレックス高校通信制に入学してよかった」と考える生徒・保護者が80%以上である。	生徒の修学目的が達成できるように、個に応じたサポートをする。	A	A	A	生徒の93%、保護者の96%が本校通信制に入学して良かったと考えている。引き続き、生徒が安心して通えるような魅力ある学校づくりに努める。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③「授業（スクーリング）やレポートが分かりやすい・適切である」と考える生徒・保護者が90%以上である。	12月に授業アンケートを実施したり、レポートで生徒が間違えやすい問題を分析したりして、生徒の実態に合った授業を工夫する。	A	A	A	スクーリングやレポートの実施状況について、生徒の95%以上、保護者の94%が肯定的である。引き続き、生徒の実態に即した指導の実施に努める。	学力向上に関する、生徒の評価が少し低いように思われる。アンケートに回答する生徒は学校を居場所にする生徒であり、学校の取り組みに好意的な生徒であると思われる。レポートの作成作業は大変であると思うが、生徒の充実感が増すよう、常に見直しを心掛けることが大切としたい。
		④「学力が向上した」と考える生徒・保護者が70%以上である。	主体的・対話的で深い学びの実現を目指して生徒理解に努めるとともに、学習の過程を重視して、自主的・自発的な態度を育む授業に取り組む。	B	B	B	「学力が向上した」と考える生徒は66%、保護者は76%であった。主体的で対話的な深い学びを心がけながらも、学力の向上が実感できるようなスクーリング・レポートになるように、工夫をしていきたい。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤生徒の単位修得率が60%以上である。	年5回配付している「個人別状況一覧」を活用して計画的に学習を進め、単位修得につながるよう、個々の生徒にきめ細かな指導を行う。	A	A	A	1月下旬の段階では成績が確定しておらず、今年度の正確な単位修得率を示すことはできない。しかし、後期テストの受験状況などから、例年通りの修得率（約68%）になると予想する。目標値は達成できているが、修得率50%を下回る科目もあるので、次年度も単位修得率の向上に向けて、きめ細かい指導をする必要がある。	
		⑥全教職員が、重点目標を踏まえた自己目標を設定し、教育活動に取り組んでいる。	重点目標と学校評価一覧表を連結し、これらに基づいて自己申告書を作成する。	A	A	A	すべての教職員が、教育目標及び学校運営方針等を踏まえて自己目標等を設定し、教育活動を展開している。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦生徒に関する情報交換を月2回以上行う。	情報の共有化を図り、統一した指導体制をとる。	A	A	A	引き続き、生徒に関する情報交換を月2回以上行い、きめ細かな指導に役立てる。	レポートの提出状況やスクーリングへの出席状況を職員間で共有しながら生徒への指導を心掛けていると思う。
		⑧「交通マナー・交通ルールの遵守を意識している」と考える生徒・保護者が100%である。	「フレックス通信」等で交通マナー・交通ルールの遵守を呼びかけるなどして、生徒の意識を高め、自己啓発を図る。	A	A	A	交通安全について、生徒の97%が「心がけている」、保護者の100%が「子どもは心がけている」と回答している。引き続き、命を大切にする指導の徹底に努める。	概ね良好である。
		⑨「学校は、いじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っている」と認識している生徒が80%以上である。	オリエンテーションや集会、フレックス通信、アンケート等において、いじめ防止に係る方針等を生徒に周知するとともに、いじめの早期発見を心がけ、認知した際は組織で対応し、早期解消に努める。	A	B	A	いじめの防止や早期発見に向けた学校の取組について、生徒の92%、保護者の83%が肯定的である。今後も「いじめ防止基本方針」等に沿って組織的・継続的な対応を行う。	個々の生徒にとっては学校内が生活の全てではないであろうから、学校外が充実していないと、学校内の生活も充実し得ないであろう。生徒の接触も通信制は濃密でないことから、いじめの問題も起こりにくいと思われる。したがって、指導は概ね良好といえる。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩「学校のHPやフレックス通信でいつも学校の情報を確認している」と考える生徒・保護者が90%以上である。	スクーリング実施日に合わせてフレックス通信を発行して情報を発信する。また、ホームページを更新し、スマホやPC等でも学校からの連絡が見られるようにする。	A	A	A	「フレックス通信」による情報配信について、生徒の95%、保護者の94%が連絡や情報が伝わっていると回答している。スクーリング実施日に合わせてホームページを更新し、スマホやPC等でも情報が確認できるようにしている。	概ね良好である。
		⑪「太田フレックス高校は、安心・安全な学習環境が整っている」と感じている生徒・保護者が70%以上である。	スクーリング実施日は、職員が校内を巡視する。また、学校行事等を精査して実施することで安心・安全な学習環境を整える。	A	A	A	学校生活について、生徒の93%、保護者の96%が肯定的な回答をしている。次年度に向け、さらに生徒が安心して学校生活を送れるような学習環境の充実を図る。	概ね良好である。
		⑫「教育相談が充実している」と考える生徒・保護者が80%以上である。	管理職、年次主任、教育相談係、スクールカウンセラー等が連携し、個々の生徒へ複数の教職員で支援を行う。	A	A	A	教育相談の充実について、生徒の97%、保護者の87%が肯定的な回答をしている。引き続き、スクールカウンセラーと連携しながら生徒・保護者が相談しやすい体制の強化を図る。	概ね良好である。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬「進路についての情報が学校から適切に提供されている」と考える生徒・保護者が70%以上である。	面談等で得た個々の生徒の情報を共有し、生徒の状況や進路希望をもとに組織的な情報発信に努める。	B	B	B	生徒の75%、保護者の63%が進路についての情報が学校から適切に提供されていたと回答している。保護者の満足度が目標値の70%を下回ってしまった。生徒・保護者の希望に即した進路情報が提供できるように、進路指導計画を再考する必要がある。	進路情報に関する保護者の評価が目標値を下回ったことは検討課題となるであろう。保護者向けの情報提供がさらに行われることが肝要ではないだろうか。どんな方法で情報提供ができるかを職員間で話し合っていたいただきたい。
		⑭「進路目標の実現に向けて努力している」と考える生徒・保護者が70%以上である。	進路説明会や個別面談等を充実させ、卒業年次生の進路目標の達成を支援する。	B	B	A	将来の夢に向かって努力していると回答した生徒は73%、子どもの夢や志望を知っていると回答した保護者は81%である。卒業予定生を中心に、進路目標の達成に向けた指導の充実を図る。	概ね良好である。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮通信制たよりである「フレックス通信」を月2回以上発行する。	保護者にも通信制の様子が伝わるよう多くの情報を提供する。	A	A	A	スクーリング等に合わせて「フレックス通信」を発行し、情報提供に努めている。引き続き、生徒・保護者にとって有用な情報を提供に努める。	保護者にとって有用な「フレックス通信」を発行することで、進路情報も効果的に伝えられるはずである。魅力的な内容になるような工夫が求められる。ここで生徒のエージェンシーが発揮できるかも知れない。企画に生徒を参加させることも検討してみてもどうだろうか。
		⑯学校（通信制）のホームページを月2回以上更新する。	スクーリングや学校行事等の連絡や、入試や学校案内等の情報を発信する。	A	A	A	計画どおりに更新を行っている。引き続き、内容の充実、精選に努める。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑰授業においてICT機器を活用した講座の割合が70%以上である。	PC、書画カメラ等を適切に活用することにより、分かりやすい授業を行う。	B	—	A	ICT機器を使った講座は77%程度であった。必要に応じてICT機器を効果的に活用し、分かりやすい授業の実施に努める。	職員間ではICT機器を活用することで業務改善が進むはずである。それによって、生徒に向かう時間が増やせることが肝心であろう。また、生徒との関係でいえば、教材の開発に役立てることが必要と思われる。個々に端末を持たせることは困難だと思われるが、インタラクティブな授業が展開できることは、生徒の人間関係形成力を伸長させるきっかけにもなると思われる。職員研修は大切であると考えたい。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑱職員間の情報共有にオンラインを活用している。	オンラインで共有できる情報を精査し、職員会議や打合せの効率化を図る。	A	—	A	オンライン掲示板を活用した打合せ・職員会議を実施している。また、アンケート等にGoogleFormsを使用して、業務改善を図っている。	
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。								